

年。

【その他】

市販誌に次の論文が現れた。「子どもの発達と文化的・

社会的状況」 小児看護, 1995, 18, 473-478.へるす出版。

(1995年10月11日)

研究経過報告

速水敏彦

1. 「外発的動機づけと内発的動機づけの間」に関する研究

このテーマは従来の外発的動機づけ対内発的動機づけのフレームを変えていこうとするものであるが、平成7年度科学研究費一般研究(C)「動機づけの内面化過程の促進に関する研究」としても認められ、中学生、高校生、大学生を対象とした検討を進めている。この基本的な考え方は今年の沖縄での日本心理学会のシンポジウム「学校教育と内発的動機づけ」(司会北尾倫彦教授)でシンポジストの一人として「外から内への動機づけ」と題して講演した。さらに、Japanese Psychological Research に Beyond extrinsic versus intrinsic motivation と題する論文が来年度、掲載される予定である。また、原稿を依頼され、心理学評論には「外発と内発の間としての達成動機づけ」という論文を書いたが、これも来年度印刷される予定である。他に、授業研究(明治図書)のリレー連載、「認知心理学から授業研究への提言」で「親密な人間関係で自律的動機づけを」という一文も書いた。

2. 自己成長力に関する研究

日生財団の助成による研究が終わり今年、シンポジウムが行われ、シンポジストの一人として参加した。その研究内容は昨年と今年のこの紀要に掲載されている。さ

らに研究を総括した書物が出版され、その一部を担当した。

「自己成長力を育む」 祖父江孝男・梶田正巳編著
『日本の自己教育力』金子書房

3. 教師の感動体験に関する研究

マツダ財団の助成によるもので現在、感動体験の作文を多数、収集しているが、この研究の前段階の雑談に関する研究の一部は今年の日本心理学会で共同発表した。この時の資料は教育心理学フォーラムとして出版したいと考えている。また、「教師・子ども・学校」 梶田正巳編『成長への人間のかかわり』有斐閣の中でも触れた。

4. その他

動機づけの発達に関する共著で『動機づけの発達心理学』有斐閣をようやく出版した。これは今まで注目されていなかった動機づけの縦の流れをとらえようとするもので、筆者は幼児の動機づけの発達と大人および老人の動機づけの2章を担当した。また、水越敏行監修 北尾倫彦編集 教育方法改善シリーズV「学習評価の改善」国立教育会館印刷の中の「関心・意欲・態度の評価」「形成的評価と個人内評価」など全体の約4分の1を担当した。さらに栗林君との児童のリーダーへの動機づけの研究は継続中で教育心理学会で発表のみを行った。

研究経過報告 ('94年4月~'95年10月)

吉田俊和

赴任して早くも1年半が経過したが、あわただしい毎日の連続であり、研究経過という形で自己点検するのは、少々気恥ずかしい思いがする。

1. 「社会的促進に関する研究」

新たな実験を行ったわけではないが、投稿中の論文が

2編公刊された。

対人距離が課題遂行に及ぼす効果—社会的促進における注意のコンフリクト仮説の検討— 1995 社会心理学研究, 10, 87-94.

注意のコンフリクトが課題遂行に及ぼす効果—認知的不

教育心理学教室教官の研究状況報告

協和がもつ活性化機能の再検討ー 1995 実験社会心理学研究, 35, 80-86.

2. 「学校組織」に関する研究

シキシマ学術・文化振興財団の研究助成により, 松原敏浩(愛知学院大学), 藤田達雄(名古屋短期大学), 本学研究科の佐々木政司, 栗林克匡の4氏と共同研究を始めた。質問項目が教師集団の根幹に関わるが多かったので, 教育センター等の機関に協力を依頼したが, 逆に内容が現場に波紋を引き起こす可能性があるとのことで, ごく一部しか協力を得られなかった。そこで, 全面的な郵送調査に踏み切った。2種類の調査で, 合計1600名規模の郵送調査は初めてであり, 発送にこぎつけるだけでもずいぶん大変な作業であった。しかし, 返送されてくる質問紙の余白に, 我々の研究に対する期待が寄せられていたりすると, 新たな研究意欲をかきたてられたりもした。研究成果は, 本年度の日本グループ・ダイナ

ミックス学会第43回大会で口頭発表され, 他の研究者たちの関心を引いた。また, その一部は, 本紀要に「学校組織の社会心理学的研究(I)ー学校組織風土についてー」のタイトルでまとめてある。本年度も第三弾の郵送調査を計画している。

3. その他 分担執筆

子どもの仲間社会 1995 梶田正巳編「成長への人間のかかわり」有斐閣 Pp.164-178.

評論

今, 難しい友だちづくり 1995 児童心理4月号 金子書房 Pp.490-495.

口頭発表

意見同調による自己呈示に関する研究 1995 日本社会心理学学会第36回大会発表論文集 Pp.372-373. (栗林克匡氏と共同)